

さがしてみました

### 秋の七種(草) ななくさ



四季がはつきりしている日本は、それぞれの季節ごとに花が咲きます。春の七草の起源が定かではないのに、秋の七草ははつきりしています。一〇〇〇年程前の「万葉集」巻八(参照・前掲)です。

○萩は木  
七草の筆頭の「萩」。実は植物形態上では草ではなく木です。万葉集で「七種」とあるのはそのためでしょうか。

○萩は木  
「秋」に草冠で「萩」、日本で作られた漢字です。万葉の時代には萩の花見が催されるほど人気があった萩。枝先に紅紫色の花が咲きます。

○校歌になった萩  
茂原町と合併になる前の高師村の小字に萩原があり、そこから萩原町が命名されたようです。萩原小学校では学校独自で候補を挙げて萩原小学校としました。萩が自生していて、その萩を校庭に植えた」と記念誌にあります。

○役に立つ葛  
葛の花は赤紫で、数多くかたまつて葉の陰の上に向か

○尾花は萱とも芒とも  
尾花は芒のことで、花穂が獣の尾に似ていることで付いた名前です。茂原にも萱場の地名があることから、この一帯も萱が生えていたと思われる。かつては、本納の橘樹神社の社殿の屋根にも使われており、その名譽に感激して萱場(村)と命名し、今日に至っています。

校章(萩の花)

萩原小学校校歌  
「萩のはな照る」  
♪ 萩の咲く町 花の町  
明るい芝生に つつまれて  
・ ・ ・ 萩っていいな  
萩のはな照る 萩原校 ♪

○おみなえしは飯  
万葉集のおみなえしの表記がさまでありますが、今では女郎花の字を当てます。オミナは女郎とし、エシ(ヘシ)はメシから変化したようです。オミナエシの蕾は黄色で粟に似ていることから、粟飯は女飯、オミナメシに命名されました。米飯は男飯、これは男郎花で、白い花が咲きます。

て咲くので、上り藤とも言われます。葛の根のでん粉を精製したのが葛粉になります。葛根湯は漢方薬。かたくり粉やジャガイモのでん粉と違って色は茶褐色です。蔓は、つる編み細工として工芸品に。また蔓から繊維を取り出して経糸に絹、麻などを用いて葛布を織りあげました。

○ナデシコは女性  
万葉集の時代に撫子は女性に例えていました。大伴家持の「わが屋外に蒔きし瞿麦いっしかも花に咲きなむ比へつつ見む」―わが庭先に蒔いたナデシコはいつになったら花咲くのだろう―あなたと比べながら見たい―唯一、種子を蒔き栽培される花でもありません。

万葉集巻八より 山上臣憶良、秋野の花を詠む歌二首  
秋の野に 咲きたる花を 指(および)折り  
かき数ふれば 七種(くさ)の花  
萩の花 尾花 葛花 なでしこの花 をみなへし  
また藤袴 朝顔の花